

もっと知ってもっと乗ろう身近な公共交通機関



鉄道の歴史

国有鉄道（国鉄）として明治33年8月1日に和寒―士別間の開通、旭川―士別間がつながり同時に剣淵駅が開設されました。その後昭和31年には東6線乗降所が開設、同34年には北剣淵乗降所が設けられました。

バスの歴史

民営バスで昭和45年まで市街経由1路線、町内7路線の運行がありました。昭和50年までに町内の7路線が廃止されました。町営バスは学校統合による児童生徒の通学のために、同49年のスクールバスの運行から始まりました。今日では町内路線を町営バスが児童生徒の通学もかねて4路線、民営バスが町内経由2路線運行しています。

近年JR北海道などの公共交通機関の利用者が減少し、維持が困難になったり、廃止されたりする問題が起きています。公共交通の利用について今一度考えてみましょう。

また、平成25年11月からデマンド型運行（※）の実証試験に取り組み、平成26年10月から本運行に移行しました。
※デマンド型運行：利用者の予約

に応じて運行する乗合自動車（愛称じんじん号）

鉄道存続の取り組み

JR北海道は、平成28年11月に「JR単独では維持困難な路線」を発表しました。旭川―名寄間は北海道高速鉄道開発(株)関連線区として、当面はJRで維持していきませんが、線区を持続的に維持するために北海道高速鉄道開発(株)との関連で検討しますとされています。さらに単独で維持困難な路線に対し、市町村の負担を求める方向性を示しました。この中には、「宗谷本線」の名寄以北の部分が含まれています。

鉄道路線の課題は、バス路線の課題と異なり、剣淵町単独のものではなく、広域市町村で対策を講じる必要があります。このため剣淵町は、宗谷本線沿線市町村などで組織する「宗谷本線活性化推進協議会」の議論を通じて、存続に向けた対応策を模索しています。

公共交通を守っていくために

路線バスは、車を運転しない方にとって、生活になくてはならない交通手段です。また、鉄道は道内都市を結び、迅速かつ安全で大量輸送ができる重要な交通インフラです。
必要な公共交通は、できる限り

存続させてなければなりません。

鉄道やバスといった地域の足である公共交通を存続させ、より便利なものにするには、地元住民である私たちが、公共交通機関を「意識して」利用することが重要です。定期バスを使ったり、休日の外出に鉄道を使ったりしてみたいかがでしょうか。

いつもと違う景色や時間の過ごし方で、気分転換や新たな発見をすることが出来るかもしれません。

剣淵駅平成28年乗車人員

105人

※1日あたりの乗車人員
※資料提供：JR北海道

道北バス平成28年乗車人員

名寄線普通上り	6人
〃 普通下り	5人
〃 急行上り	1人
〃 急行下り	3人

※1日あたりの乗車人員
※資料提供：道北バス(株)